

みんなで応援しよう！ 晴れの国おかやま国体

瀬戸内市炬火・採火式 国体応援用品贈呈式



集光器から採火する橋本さん



炬火台に点火する道上さん



採火した火を高々と掲げます



橋本さん(右)から道上さんへ火を渡します



立岡市長が「新生せとうち希望の火」と命名



安全灯へ点火する雪吉さん



立岡市長(左)が東原助役に安全灯を委託



炬火・採火式を無事終え、ほほ笑む女神たち



応援小旗を手渡す小学生



牛窓・邑久中学校の生徒たちが、応援のぼりを市長に手渡しました



長船中学校の生徒たちが作製した応援横断幕

7月22日、牛窓町オリブ園ローマの丘「三美神広場」で瀬戸内市炬火・採火式及び国体応援用品贈呈式が行われました。会場となった三美神広場は古代ギリシヤ神殿のような造りで、眼下に瀬戸内海の美しい風景が見渡せ、牛窓が「日本のエーゲ海」と呼ばれる理由を実感できる場所です。
採火するのは、橋本実季さん(牛窓中)、道上光さん(邑久中)、雪吉未希さん(長船中)の3人。3人は邑久町公民館グループ・洋裁クラブの皆さんが作った白いドレスを身にまとい、頭にはオリブの枝を編み、ひまわりの花が装飾された冠をかぶり、まるでギリシャ神話に登場する女神のようでした。採火方法は、オリンピックと同じで集光器に太陽の光を集め、火をおこす光学方式。

午前11時、ブラスパンドの演奏を合図に式典が始まりました。まず、橋本さんが集光器の太陽光が一点に集まる箇所にてーチの先を当て、1分、2分・・・皆さんが固唾をのんで見守る中、赤々と火が点きました。力強く燃え上がる火を橋本さんが高々と空に向かってかざすと、会場内から大きな拍手が沸き起りました。

次に、その火は橋本さんから道上さんに渡され、受け取った火を炬火台に点火し、立岡修二市長が「新生せとうち希望の火」と命名。瀬戸内市の「炬火」が誕生しました。雪吉さんが炬火台の火を点火棒でとり、安全灯(ランプ)へ灯し、その安全灯が立岡市長から東原和郎助役に渡されました。この安全灯に灯された火は市役所の玄関ロビーで保管され8月10日、後楽園「幻想庭園」で行われた集火式で県内すべての市町村の火が一つになりました。こうして誕生した炬火は岡山国体夏季大会、秋季大会、全国障害者スポーツ大会それぞれの開会式で炬火台に点火され、大会期間中、選手たちの活躍を見守ります。

炬火・採火式に引き続き行われた国体応援用品贈呈式では、国体に参加する選手・監督を歓迎するため、市内の幼稚園児、小・中・高等学校の児童、生徒が心を込めて作製したのぼりや小旗などの作品を代表者から市長へ贈呈しました。みんなの熱い思いが込められたこれらの作品は、全国から訪れる選手たちにとって大きな力となるでしょう！